

越後国西頃城郡青海町大字外波（親不知駅より西約一粓）

見 真 大 師 御 草 枕 御 旧 跡

飛 龍 山 大 雲 寺 略 縁 記

郵便番号 九四九一〇一

電話 青海(0255)211010

飛龍山大雲寺略縁記

仰々、当山の開基俗姓は正五位下前の若狭守右近太夫平宗輝とて、外波村の庄司神職なり。仔細あつて大文字屋右近と称せり。然るに承元々年弥生仲旬の頃宗祖聖人非義の讒奏に依て流刑の宣旨を蒙り玉ひ、波風強き荒磯の越路の浜に渡せ玉ふ。然るに、聖人親不知の難所に掛らせ玉へば、沖の白波岸を洗ひ、北は渺々たる北海の滄溟、南は峨々たる懸崖攀るに途なし、飛鳥も翼を休め猿も転び落なん容易ならざる大難所。女波男波渦巻く其中を、師弟三人往つ戻つ、立煩ひ玉ふ。恰も、屠所の羊に彷彿たり。茲に一人の里人忽然と現はれ、頭には菅笠身に短蓑を着け、聖人の御前に跪き道の案内を示す。聖人の曰く『貴方は何所の人にて在すかは知ね共我等は都洛の者にして念佛繁昌が罪となり、國府の邑へ落行者にて候。此難所に漂ひ行先を知ず、哀れ其方の情の袖を持みに存ずる。』との玉へば、里人申けるは『私は此先の里に住む、たちすくみと申す者にて候。貴僧の此所へ渡せ玉ふを知て此所に迎へ奉る。』と、親不知の難所を首尾よく御送申して行方知れず。師弟三人不思議の思をなし、進玉ふに、程なく外波の里に入せられ、此處や彼處と宿を乞せ玉へ共。疊枳の心を以て宿を進せず、大文字屋が庭なる大石に御腰を憩せ玉ひ、御弟子西仏房に宿を乞せ玉へば、右近太夫立出聖人の尊顔を拝するに、こは凡人にはあらじと思ひ直ちに宿を仕奉る。聖人彼等夫婦の誠意を感じ、即親不知の化人の由來を語り玉へば右近答て云く「我妻の内仏の阿弥陀如来を、たちすくみと称し奉る」と、御返答申乍ら不思議の思をなし、御安置仏を開き見奉れば、御裾は潮に濡れ下段に降て在す。此奇瑞に感じ、御弟子となり、法名を宗雲と賜る。終夜、聖人獨世末代の凡夫には如來大悲の深く在す事を述玉ふ。翌日、名残を惜みければ十字の名号を授け玉ふ。其れより代々子孫に伝へて崇敬し奉りけり。

大雲寺法寶物

立すべくみ如來 三方正面如來

竹布十字名号 法然上人月輪の御影

善導大師半金色御影 旅立御真影

琢如上人御消息 八十六才御形見真影

御手書き名号 その他の

親不知子不知經

(巴利增一阿含經)

比丘等よ、世間に云ふ親不知子不知と云ふ場合が三つある。一は大火灾が起る。燃え盛る火に依って、村が焼け町が焼け市が焼ける。火勢の烈しさに、母は子を見ることが出来ず、子は母を助けることが出来ない。これが世間に云ふ親不知子不知の第一の場合である。

二には、大暴雨が起つて、大洪水となる、村を流し、町を流し、市を流す。この水勢に流し漂はざるゝ場所では、母は子を助けることが出来ず、子は母を助けることが出来ない。これが世間に云ふ親不知子不知の第二の場合である。

三には、森林に住む大盜賊團が掠奪を初める。村人は逃げ走つて、母は子を見ることが出来ず、子は母を助けることが出来ない。これが世間に云ふ親不知子不知の第三の場合である。

比丘等よ、然しこれらの三つの場合に於ては、時として母子相助け合ふ機會があることもある。これ以外に、眞に母子離れぐるになる、親不知子不知の三つの場合がある。それは老の恐れと病の恐れと死の恐れが襲ひ來つた時である。

子供の老い行くを、母は、「私が老いて子供が年を取らないやうに」とする譯には行かない。母の老い行くを、「子供が私が老いて、母が年を取らないやうに」とする譯には行かない。

又子供の病氣を見て、母が私が代りに病氣になつて、「子供の病氣がないやうに」となすることは出来ない。母の病氣を、「子供が私が病氣になつて、母の病氣が癒るやうに」とする譯には行かない。

又子供の死を母が、「私が死んで子供が生きるやうに」と引き戻すことは出来ない。母の死を子供が、「私が身代りになつて母の生命が助かるやうに」と助けることは出来ない。比丘等よこれが眞の親不知子不知である。

比丘等よ、然し乍ら、前の三つの場合と後の三つの場合と、この六つの恐れを超えて離れる道がある。それは八正道、即ち正見・正思惟・正語・正業・正命・正精進・正念・正定である。

新潟県西頸城郡青海町外波

大

雲

寺

青海局 (〇一一五五六一) 三〇三〇〇
(北陸線親不知駅より西一、〇〇〇メ)

祖師臨久
規示知便通示圖



越後外波村海日歸大慶寺

石影御

〇

石影御は、御影堂の前庭に立つて、御影堂の形を模して作られた石造物である。

御影堂の前庭に立つて、御影堂の形を模して作られた石造物である。

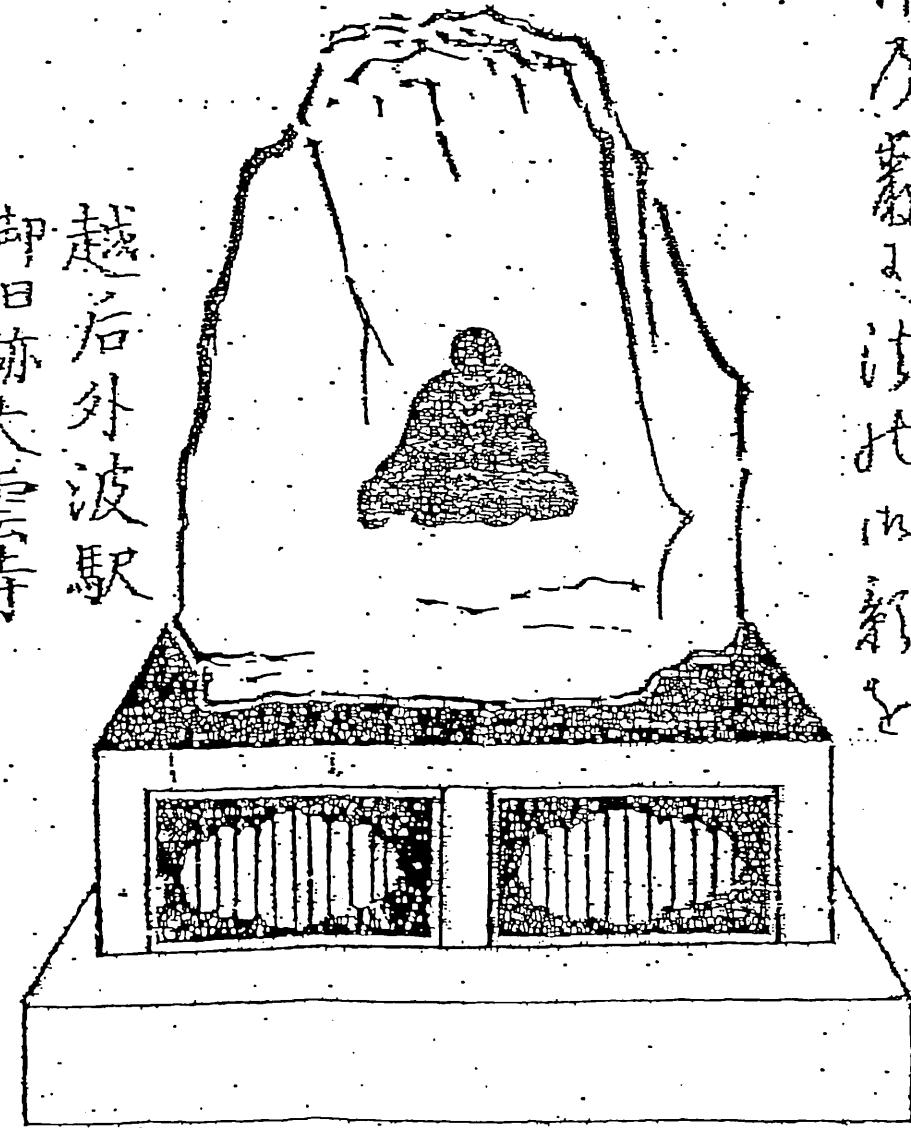
御影堂の前庭に立つて、御影堂の形を模して作られた石造物である。

御影堂の前庭に立つて、御影堂の形を模して作られた石造物である。

〇

石影御

越後外波駅
御跡大聖寺



御影石縁起

万代と浪は立来て洗へとも替らぬ物は水茎の跡

聖徳太子御歌

水茎のあとも遠かれ歌の濱洗ひ流すな八重の白波

宗祖聖人御添歌

親しらすより東の海辺二里が間を歌の浜といふ太子聖人
二尊の御歌当寺に伝來す太子の御詠歌聖人の御添歌と
往古より里人言伝へはへる不思議なるかな天保十とせの頃
大浪にこの御影石顯れ里人こそりて宗祖聖人石靈といふて
尊敬す今二尊の御詠歌に符合す時に天保十四年癸卯正月
二十一日太子の御退夜の日里人參りまめやかに當寺に引上
安置す誠仏法不思義日々に繁昌仕給ふ事かんすべし

庭前に

いにしへ農ふしき越今も越路なる

浦の巖に法の御影を

外波 大雲寺



顕如上人九字名號縁記

當段ニ崇敬シ奉ルハ顕如上人御眞筆ノ

九字ノ名号也其由來ヲ尋奉ルニ時ノ

將軍織田信長公ハ其頃渡來南蛮國ノ

宗教切支丹ヲ信ジ佛教家ノ建立セシ堂

宇ハ神社佛閣ヲ論ゼス私怨ヲ口實ト

シテ是ヲ破却ス然レドモ外面ニハ聊カ勤

王ノ志ヲ懷クヲ似テ世人默シテ是ヲ許ス

然ルニ我本願寺ノ舊地タル大阪市石山城

ハソノ昔蓮如上人或夜ノ靈夢ニ感ジテ

建立シ玉フ所也 是ヲ信長公再三ノ所望ナリ

上人一家門葉ト相議シテ是ヲ拒辞シ玉フニ

信長是ヲ怨トシテ遂ニ十三年ノ鎬ヲ削ル

時ニ聖上陛下勅使ヲ似テ本願寺ヲ論シ玉フ

依テ王法爲本ノ租訓ヲ守リ石山ノ本山ヲ退

キ玉ヒ紀元ノ驚ケ森ヘト落行キ玉フ其時

信長ハ惡念未ダ止ミガタク勢時ヲ得タリト

數万ノ軍勢ヲ駆ケ集メ驚ケ森ノ小御堂ノ

四方ヘ柴薪ヲ積ミ立テ一時煙ト焼拂ント

ノ企テナリ見ル目サヘモ御慘シキアリサマナリ

其時顕如上人ヲ始メトシテ一家中馳集リ淨土

眞宗モ今日限り是ヤ今生ノ暇乞ト顕如

上人ノ御調聲ニテ御眞影様ヘ御暇乞

ノ三首引涙ナガラノ勤行ナリシト云云

アラ嬉り哉敵ノ大將信長ハ京都本能寺

ニ於テ明智光秀ノ爲ニ討タレタ時ヲ

争フ早飛脚ソレヲ聞クヨリ数万ノ軍

勢コハ唯事ナラジト其ノママ京都へ馳登ル

其時顕如上人ヲ始メ一家中ノ喜ビ斜ナラズ

鈴木孫市良固殿ハ敵ノ彈丸ニ射ラ

レ跛トナヅテ居ラレタガ此時ニ立上リテ踊

ラレタガ是ヲ鈴木孫市跛踊ト申シ傳ヘタリ

時ニ宗俊ハ信長モ死亡シタレバ最早本山モ

安堵ナレバ御暇仕ラント申シケレバ上人ハ

深グ別ヲ惜シミ玉ヒ三日市ノ辻徳岸

ヘハ六字ノ名号ヲ宗俊ヘハコノ九字

ノ名号ヲ合戰御加勢ノ褒美トシテ

賜リタルナレバ何レモ大切ニ拜禮遂グラレヨ

ぬるかみ 1月号 (11.1.15)

山吹双雀鏡

写真撮影 斎京氏
鏡保管 大雲寺
解説者 青木氏

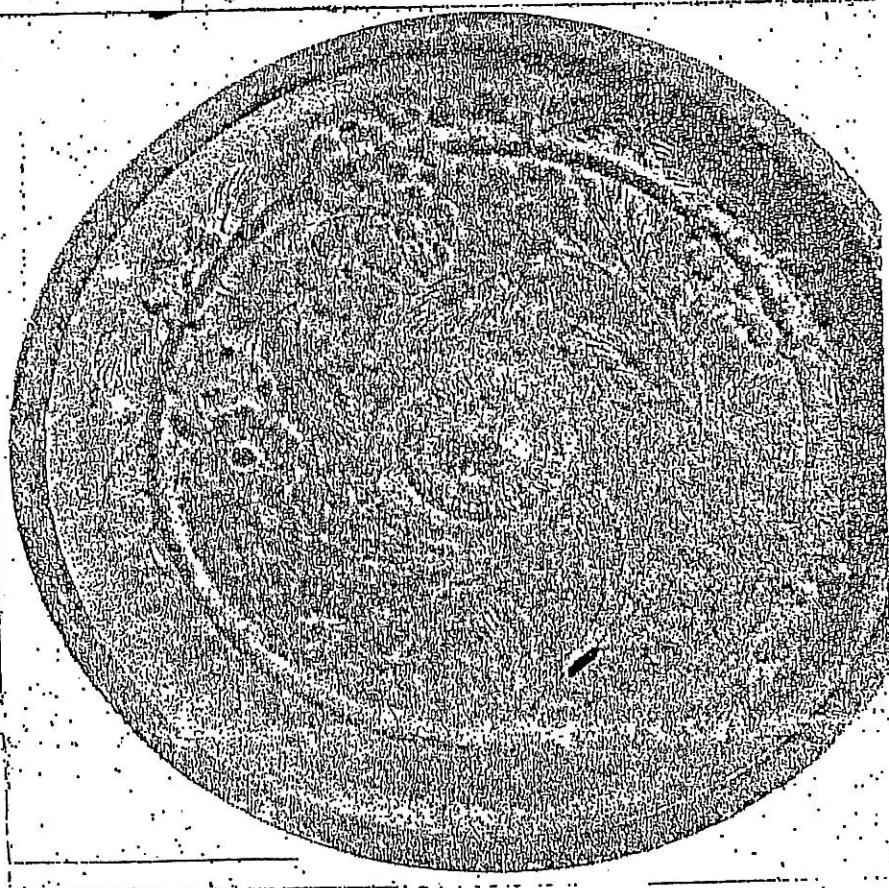
これは平安時代に日本で
作られた鏡の裏です。

花と二羽のスズメで、
よくものでしようが、美
しくセンサイな図がらは、

山吹双雀鏡

日本人のコノミによくあつ
たものです。中央の小さい
イボは、ヒモを通して持
たれるようにしたものです
ます。直径三寸もない小さい、か
わいらしい鏡で、このごろ
発見されたのです。

保存がよかつたので、め
ずらしくいたんでおりませ
ん。外波の大雲寺が保管し
ており、青海町の古い文化
を知る、重要な文化財です。



北日本新聞 11.1.15

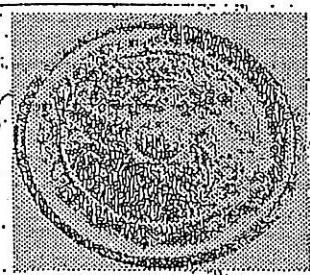
平安中期の古鏡発見

准國宝級のもの

【系譜】平安中
期作といわれ
古鏡がつかり話
題をあげてじ
これは西城郡
鹿野地内で「螺
貝未知の鏡」付
て発見された物
とされ、いま
青海町に保
存されている
とあります。
山吹双雀鏡

毎日新聞

11.1.20



青海大雲寺 平安中期の作
に山吹古鏡 いわゆる山吹鏡の
古鏡が西城郡青海町歌川外波大雲寺
(住職平宗義)で発見され
た。直径三寸五分を費して「山
吹双雀」の模様があり、日本の趣
味を生かしたなどと云ふ。
み「とな青銅鏡の裏面」